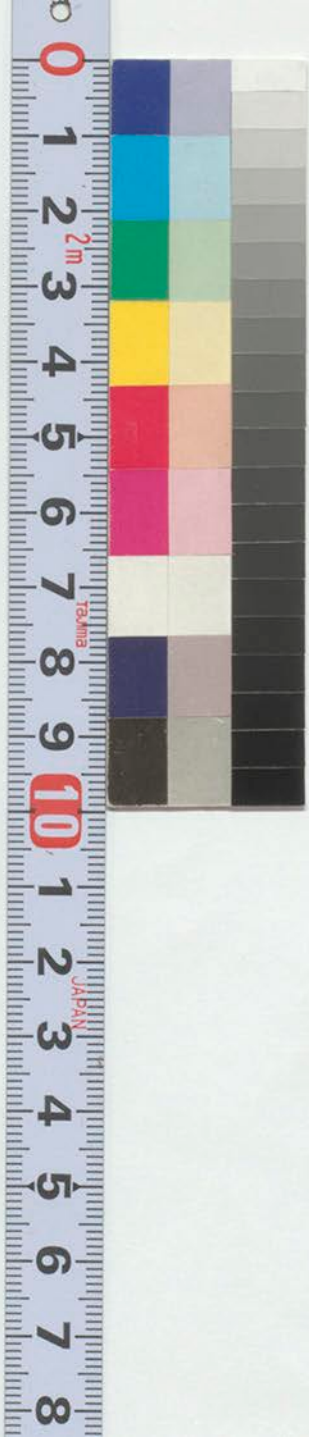


龜谷百人一首

全





源氏
五十四帖
查圖

天智天皇

秋の田名

前植乃

席に

管を

我衣子

病ふれは





明徳

秋の夜

のこころ

こころ

こころ

こころ

こころ

明徳

秋の夜

のこころ

こころ

こころ

こころ

こころ

花撰法師

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ



小野小町

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ

こころ



明徳

秋の夜

のこころ

こころ

こころ

こころ

こころ

明徳

秋の夜

のこころ

こころ

こころ

こころ



繪人會

人、
あり、
あり、
あり、
あり、



三

松蔭

松尾
おのり

蟬丸

乃
乃

22

五

羅叔

あさひ



本議堂

和回

八十

力

卷之五

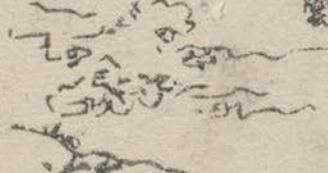
人主法者よ

わきのつり糸



1800-1801

卷之八

[illegible]

あつた
あつた
あつた
あつた





乙女
 とらふまゝに
 かたがはに
 あつちまで
 まる
 のり
 のり



其の八
 其の九
 其の十
 其の十一
 其の十二
 其の十三
 其の十四
 其の十五
 其の十六
 其の十七
 其の十八
 其の十九
 其の二十
 其の二十一
 其の二十二
 其の二十三
 其の二十四
 其の二十五
 其の二十六
 其の二十七
 其の二十八
 其の二十九
 其の三十
 其の三十一
 其の三十二
 其の三十三
 其の三十四
 其の三十五
 其の三十六
 其の三十七
 其の三十八
 其の三十九
 其の四十
 其の四十一
 其の四十二
 其の四十三
 其の四十四
 其の四十五
 其の四十六
 其の四十七
 其の四十八
 其の四十九
 其の五十
 其の五十一
 其の五十二
 其の五十三
 其の五十四
 其の五十五
 其の五十六
 其の五十七
 其の五十八
 其の五十九
 其の六十
 其の六十一
 其の六十二
 其の六十三
 其の六十四
 其の六十五
 其の六十六
 其の六十七
 其の六十八
 其の六十九
 其の七十
 其の七十一
 其の七十二
 其の七十三
 其の七十四
 其の七十五
 其の七十六
 其の七十七
 其の七十八
 其の七十九
 其の八十
 其の八十一
 其の八十二
 其の八十三
 其の八十四
 其の八十五
 其の八十六
 其の八十七
 其の八十八
 其の八十九
 其の九十
 其の九十一
 其の九十二
 其の九十三
 其の九十四
 其の九十五
 其の九十六
 其の九十七
 其の九十八
 其の九十九
 其の百

[illegible][illegible]

僧正遍昭

天津路

今

七

大
ち

卷之四

七

卷之四



陽城院

法
大
の

な

三

見形乃

卷之四

倒



あやめ

こゝろを
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ

あやめ

あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ



あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ



あやめ

あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ

あやめ

あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ
あやめ



あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ

あやめ





行幸

ぞくぞくと
ゆくゆく
ゆくゆく
ゆくゆく
ゆくゆく
ゆくゆく
ゆくゆく
ゆくゆく



宗



養

おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ



梅



中納言乃平

まじりて

いねむり

山乃

き

おふ

まじり

今

かきこ



在る

手早振

外代

き

ま

か

水

かきこ



印
抱水



翠の
 とく
 りえん
 ひつり
 むとれ
 こゝろ
 だひの娘や
 えん




 上海圖書館藏

[illegible]

元
氏
親
王



魚魚魚魚魚魚魚



 国立国会図書館蔵



A woodblock print illustration of a butterfly, likely a Pieris species, shown in profile. The butterfly is positioned horizontally, with its wings spread. Above the butterfly, there is a large, stylized character, possibly '山' (mountain). To the left of the butterfly, there are several vertical columns of Japanese text in kuzushiji script. The background is plain, with some small, scattered dots or marks.


 国立国会図書館蔵



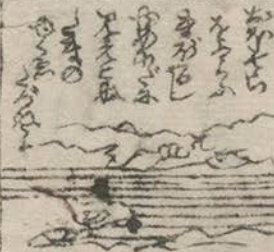
素性法師



今とひと
いひ
なり
なり
きつて
長月
ありあり
有明の
乃
中ち
生れり

A black and white portrait of a man with a shaved head and a small tuft of hair at the back, wearing a traditional Japanese robe (kimono) with a patterned collar. He is seated and looking slightly to the right.

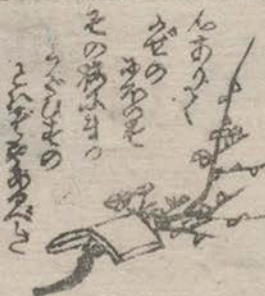
幻
おひら
そふ
まの
まの
まの



幻
おひら
そふ
まの
まの
まの



幻
おひら
そふ
まの
まの
まの



幻
おひら
そふ
まの
まの
まの



文
屋
康
秀



吹
く
れ
秋
意
さ
る
の
ほ
ろ
む
び
こ
ろ
わ
く
と
う
え
ん

大
江
千
里



月
夜
さ
る
の
ほ
ろ
む
び
こ
ろ
わ
く
と
う
え
ん



老いひの
 心ざらむを
 くらげのこ
 こゝろの
 老いひの
 心ざらむを
 くらげのこ



THE

あやふしだと
いふ一書ありと
むすむ

五
十
五

[illegible]

而

わのふふふ
おふふ
ちふふ
おふふ
ふふ



100

翠嶽

あまのこ
うしろ
かき
うしろ
うしろ



三條右大臣
名所あり
わふさる
さる
人よあはれ
さるよりさる



三 奥信公

あつちの
しんじの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの



奥信公

小念心

もも乃

りみ

むら

むら

今

御



三 奥信公

あつちの
しんじの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの

あつちの
あつちの



中納言

見

く

あ

い

以

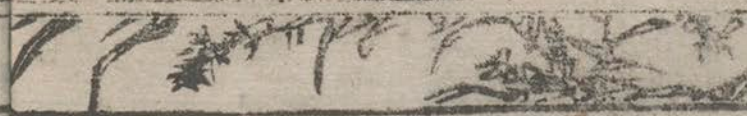
無

無





七夕歌集



事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一

事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一

事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一

事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一

事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一

事 壬午 壬午
 今 今 今
 一 一 一
 一 一 一



卷之三

子方今

卷之六

易少微
 明孝宗

李
失
方
人

卷一

天祐元年

七文はあふ

とく

之

又方

かきくけこ

如子

新風の矢

四
五

入道の
くさし

卷之四

我之爲人

ありぬるなり

五

春道列樹

山陰風力

子新

五

...

正徳

なりな季

紀友則

冬

のどいびり

170

孝

書
日
中

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

新刊



卷之七

川
おもしろい
浪もあつた

みづ

新行
 其
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

日
 三ノノ
 七ノノ
 八ノノ
 九ノノ
 十ノノ
 十一ノノ
 十二ノノ
 十三ノノ
 十四ノノ
 十五ノノ
 十六ノノ
 十七ノノ
 十八ノノ
 十九ノノ
 二十ノノ
 二十一ノノ
 二十二ノノ
 二十三ノノ
 二十四ノノ
 二十五ノノ
 二十六ノノ
 二十七ノノ
 二十八ノノ
 二十九ノノ
 三十ノノ
 三十一ノノ
 三十二ノノ
 三十三ノノ
 三十四ノノ
 三十五ノノ
 三十六ノノ
 三十七ノノ
 三十八ノノ
 三十九ノノ
 四十ノノ
 四十一ノノ
 四十二ノノ
 四十三ノノ
 四十四ノノ
 四十五ノノ
 四十六ノノ
 四十七ノノ
 四十八ノノ
 四十九ノノ
 五十ノノ
 五十一ノノ
 五十二ノノ
 五十三ノノ
 五十四ノノ
 五十五ノノ
 五十六ノノ
 五十七ノノ
 五十八ノノ
 五十九ノノ
 六十ノノ
 六十一ノノ
 六十二ノノ
 六十三ノノ
 六十四ノノ
 六十五ノノ
 六十六ノノ
 六十七ノノ
 六十八ノノ
 六十九ノノ
 七十ノノ
 七十一ノノ
 七十二ノノ
 七十三ノノ
 七十四ノノ
 七十五ノノ
 七十六ノノ
 七十七ノノ
 七十八ノノ
 七十九ノノ
 八十ノノ
 八十一ノノ
 八十二ノノ
 八十三ノノ
 八十四ノノ
 八十五ノノ
 八十六ノノ
 八十七ノノ
 八十八ノノ
 八十九ノノ
 九十ノノ
 九十一ノノ
 九十二ノノ
 九十三ノノ
 九十四ノノ
 九十五ノノ
 九十六ノノ
 九十七ノノ
 九十八ノノ
 九十九ノノ
 百ノノ

ふみくし
まのほろりた
ふみくし
ふみくし
ふみくし

日
 秋元ハ
 川書
 江戸
 江戸
 江戸

あまのり
あまのり
あまのり

菰
束
魯
風

依てうま

人

七

乃

松子

友如形如

死きの資の三さん

人

會

走

五

花七郎丸

嘉慶

子



七

死きの資の三さん

人

會

走

五

花七郎丸

嘉慶

子



夢人あつて
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢



夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢



夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢
 夢の夢の夢の夢

續 天の川 ありあ
 源の糸 ありあ
 うもせ ありあ
 ありあ

五ノト
ふたりのこと
あつきの事だ
そとへて
ふたりのこと

我の志はなんぞ
あつてゐるぞ
あつてゐるぞ
あつてゐるぞ

口
夷市の
ぜいふ
唐紙

[illegible][illegible]

A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and holding a long object, possibly a sword or a scroll. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy characters. The man is wearing a dark, patterned robe with wide sleeves and a traditional headpiece. He has a mustache and a small goatee. The calligraphy is in a bold, expressive style, with characters that appear to be 'わさるめ' (wasarume) and 'おの' (ono). The background is plain, and the overall style is reminiscent of a woodblock print or a traditional Japanese painting.



藤原中山
 白うりや 虎
 地獄うりや 虎
 根の今更 況
 こそよ

小みき
 小みき
 小みき
 小みき
 小みき

小みき
 小みき
 小みき
 小みき
 小みき

雨宮
 小みき
 小みき
 小みき
 小みき

小みき
 小みき
 小みき
 小みき
 小みき

小みき
 小みき
 小みき
 小みき
 小みき



陽春
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬

春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬

春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬

春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬

春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬

春の 冬
 春の 冬
 春の 冬
 春の 冬



曾孫好忠
 一節をうそ
 七文は通
 兄ぬわう

新左衛門
 志れういふ
 兄ぬわう
 のまはう

小幡
 志れういふ
 七文は通
 志れういふ

無因法師
 志れういふ
 志れういふ
 志れういふ

志れういふ
 志れういふ
 志れういふ
 志れういふ

志れういふ
 志れういふ
 志れういふ
 志れういふ



小辨
しんをば
まうより
七の合をば
はうやう

お左を
七の合をば
あきひく
あきひく
あきひく

大に徳
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

源重之



風をいふ
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

源重之
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

源重之
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

源重之
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

源重之
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく



源重之
あきひく
あきひく
あきひく
あきひく

由大馬
 馬のあそ かのさ
 別々 馬のさ
 七馬 馬のさ
 馬のさ

中納言
 七月はかき
 秋のさき
 ほうめりた
 金さき

大の川
 舟の
 おまき
 おまき
 おまき

土佐内務
 馬のさき
 ほうめりた
 おまき
 金さき

今歌
 秋のさ
 ほうめりた
 おまき
 金さき

秋歌
 秋のさ
 おまき
 ほうめりた
 金さき



日 願 願 願
七 七 七
あ ち ち
い け け

日 七 七
あ ち ち
い け け

日 七 七
あ ち ち
い け け

日 七 七
あ ち ち
い け け

日 七 七
あ ち ち
い け け

日 七 七
あ ち ち
い け け





俄同可母

おそれの

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ

おそれ



くさしー▲
ふんばふの位
ふんばふー▲
ふんばふー▲
ふんばふー▲
ふんばふー▲
ふんばふー▲



りつゝとこれにあらはれ
 縁のうらやまを電光
 あつとていふはあつ
 ちゝれぬぞのやう
 ▲雲のいふあつたを
 とれなくともあつた
 さうな ▲雲のうらや
 のやうとこれにあら
 縁をたふさうな ▲雲
 をいふとあつたと
 せんせふあり何し
 秋へあつたやうな
 せんせふとあつた



のまゝそれとてさうむ
 一 種 ^いを ^おろく ^とす
 二 種 ^いを ^おろく ^とす
 三 種 ^いを ^おろく ^とす
 四 種 ^いを ^おろく ^とす
 五 種 ^いを ^おろく ^とす
 六 種 ^いを ^おろく ^とす
 七 種 ^いを ^おろく ^とす
 八 種 ^いを ^おろく ^とす
 九 種 ^いを ^おろく ^とす
 十 種 ^いを ^おろく ^とす



樹より 山原を
をぬきまうとみれば
之のうらむをきく
まじしをさるる
とらむをさるる
あるとみれば
ふたたびの山原



なるれはぬたのほを
 大つちうさー山の
 上のちうさえれが
 の人ふまゝとてはじ
 八景のうへあゝあ
 兄でもおなじ山より
 ちうさゝれや人ふま
 ぢうさゝれあゝとて
 れはぬたのほを
 て大つちうさゝれを
 いのちゝ山のちを
 のちとてれをぢうさ
 海をぢうさゝれとて

小式部内侍



なるれはぬたのほを
 大つちうさー山の
 上のちうさえれが
 の人ふまゝとてはじ
 八景のうへあゝあ
 兄でもおなじ山より
 ちうさゝれや人ふま
 ぢうさゝれあゝとて
 れはぬたのほを
 て大つちうさゝれを
 いのちゝ山のちを
 のちとてれをぢうさ
 海をぢうさゝれとて

伴勢之満



新編をあらわす中にも
 一 ▲山崎の精進
 の所あり ▲一
 書をくむとこれを
 後、ゆきえなり
 ▲山崎の精進のさん
 なるうゝとんれを
 みるのそとうとんれ
 あり ▲山崎の精進
 なるうゝとんれを
 みるのそとうとんれ
 あり ▲山崎の精進
 なるうゝとんれを
 みるのそとうとんれ

徳少約を
 徳とて免て
 雪れとて
 はるる
 よれゆめ
 冥ハ
 冥ハ



石炭ノ入庫ノ人ノ哭ノ声ノ大ニ

とうあるやー ▲ふきぬ
 のうふあふとんれを
 見るのそとうとんれ
 あり ▲山崎の精進
 のうふあふとんれを
 見るのそとうとんれ



左東右通症
 今ハ
 人ハ
 人ハ



一ツの興義をのぞ
 つまみしめりあふ
 されどあふくと見
 れるやうふゆえん
 つまみしめりあふ
 えりあふとみえ
 をみしめりあふ
 そひつとみえりあふ
 △文書ありき
 ねとみえりあふ
 をみしめりあふ
 をみしめりあふ



△文書ありき
 ねとみえりあふ
 をみしめりあふ
 をみしめりあふ
 そひつとみえりあふ
 △文書ありき
 ねとみえりあふ
 をみしめりあふ
 をみしめりあふ



大なりし者もさう
 言ふれを欺^{あや}す
 るり^{あや}の者を
 こそこれのよし
 あり^{あや}金^{あや}に
 欺^{あや}すれをさう
 されをさう
 引^{あや}とこれ
 にくとさう
 知^{あや}とこれ
 欺^{あや}とこれ
 をさう
 欺^{あや}とこれ



卷之四

ひさし

東遊

五

山
福

松

不名

卷之五

周錫內帖

表此款乃

愛宕

有

子
桃
牙

之

孝

名之

七



金銀をさるゝとてこれに
 まんぢやうとまらぬり
 がたふゝのちをえんと
 りればおとすかゝる
 こゝろかえるといれ
 やとのなまじやうく
 又わりのちをえよ



藤をえるといふれを
 田舎にまうくくー
 藤のよきうあると
 えれば国をまうり
 藤ふひまをくをえ
 ちうれをんくくふ
 えんありふ藤をえ
 べんれのか後をえ
 て馬をえをえのさ
 ぶつうりふ藤をえ
 を食をえといんふ
 いづれもふ命をえ
 さやうふ藤をえ



三條院
 んもあ
 うたせ
 んを
 意かき
 秋すの
 月れ

の藤をえといふれ
 ちうれをんくくふ
 えんありふ藤をえ
 べんれのか後をえ
 て馬をえをえのさ
 ぶつうりふ藤をえ
 を食をえといんふ
 いづれもふ命をえ
 さやうふ藤をえ



三條院
 んもあ
 うたせ
 んを
 意かき
 秋すの
 月れ

其の心を成すこと
 さればなりと云ふと
 唯ふと聲をいひて
 をえればその心は
 うるはれに落ちり
 まつと云ふれを
 ひきあり



其の心を成すこと
 さればなりと云ふと
 唯ふと聲をいひて
 をえればその心は
 うるはれに落ちり
 まつと云ふれを
 ひきあり

家進法師
 此の心
 やと成
 出で
 秋乃
 大納言

大納言
 秋乃
 大納言

又れが大ふ人ふあひ
 せらふ。▲ちの葉と
 るれバ納め不願を
 えらるるふよう。をす
 をとる。ちのふよう。
 ▲ちの葉とえらるるふ
 ちん人ふあひ。▲ちの葉
 得い。ちのれをえれ
 ばす。い。のり。年。の。え
 くと。ち。の。ふ。や。す。い。の。や
 を。え。ら。る。る。ふ。よう。を
 と。と。れ。ば。ふ。や。す。い。の。や
 のり。▲ちの葉とえらるるふ

油の湯も
 名や
 わづら
 ち乃
 ち乃
 ち乃
 ち乃
 ち乃



祐吉の記傳

本中刺意匠店

三

卷上

三

養

升平

孝子



子てくく人あはし
 若衆をすつてまじ
 儼——くく真あり

▲男木女工 あり

子てくく人あはし
 子てくく人あはし
 子てくく人あはし

▲男木女工 あり

子てくく人あはし
 子てくく人あはし
 子てくく人あはし

▲男木女工 あり

子てくく人あはし
 子てくく人あはし
 子てくく人あはし

▲男木女工 あり

子てくく人あはし
 子てくく人あはし
 子てくく人あはし

▲男木女工 あり

子てくく人あはし
 子てくく人あはし
 子てくく人あはし



法性寺入道南無阿弥陀

お田のそら

きき

くされ

今日井よき人

わき



宗徳院

お

お

お

お

お

お



▲男火女土 大者

子二人多し人あはれ
後天の命あり

花よりかみより

▲男火女金 大者

子二人多し人あはれ
中よりさき

▲男火女木 大者

子二人多し人あはれ
さきよりさき

▲男火女水 大者

子一人多し人あはれ
さきよりさき

▲男土女土 大者

子一人多し人あはれ
さきよりさき

▲男土女金 大者

子一人多し人あはれ
さきよりさき

▲男土女木 大者

子一人多し人あはれ
さきよりさき

▲男土女水 大者

子一人多し人あはれ
さきよりさき

味氣圖

使語

かよふ

ち

乃

乃

乃

乃

左系を大補

秋風

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃



主人の意に違ふ
て天に告ぐべし



▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

道因法師

おもひも

さても

今

あつ

うたふ

おとこ

ありと



▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

▲男令女を
子二人あれども入るを
かたづけしむるを
わいせつと云ふ

白鳥の庵に
世乃中よ

たふれ

おひ

のち

あつ

あつ





さういふは、さういふは、

子て人、さういふは、
但子、さういふは、
さういふは、さういふは、
いふ、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、



さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、

さういふは、さういふは、



さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、
さういふは、さういふは、

人間王の如き

先むまれぬてより
七日間と一七夜とま
は日暮をつひきぬ
を思ふてより男と
女の袖よりこそ
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり

人間王の如き



おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり
おちの袖よりこそ
ふしとあり



時とふと一返事
 へ来^まてと云うをいれ
 るとあると云ひあ
 りて居るといふは
 うといふのもあるが
 能くさうして歌が
 讀むとき十七八と
 ころもあり年かの
 ころするところ
 留札があるところ
 の後由あるところ
 までさういふこと
 をわきまにすべし

[illegible]

嘉祥の國

男を
男を



女



世傳のなりたるを極む
 ち^カ極とを規るゝのこふ
 月七^カ極^カ引^カて思^カ極
 のこりなりふ^カ極^カ

總子



東廣



入道いどう さとのいふよりさかん

郭子

市子

卷之六

如

なぞ

鳴りひのり

積
方
け
至



檀中納言正家

大奴

生不此

うの

卷之四

卷之六

乃

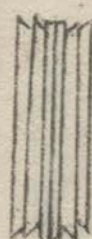
卷之五



あはれ



うしろ



あはれ



あはれ



正二位家隆

風うしろ

おろし

小川

文の

みそたてまの

あはれ
なりたる



あはれ



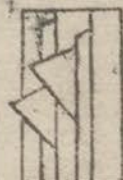
あはれ



あはれ



あはれ



後鳥羽院

人まじり

うしろ

あはれ

世にかりん

物思ふ



